UENO EAST ROTARY CLUB　SINCE 1981.04.23　上野東ロータリークラブ

2023-2024年度 Rotary
上野東ロータリークラブ　クラブスローガン
「三十九の人
三十九の場をしめて
例会の始まらんとす」

週報 WEEKLY REPORT 2023-2024

事務所　三重県伊賀市西明寺2756－104　ﾋﾙﾎﾃﾙｻﾝﾋﾟｱ伊賀内
TEL 0595-24-4650　FAX 0595-24-4656

例　会　毎週木曜日　12:30点鐘　第3・第5週例会　18:00点鐘

世界に希望を生み出そう
1996/No.13

URL: http://www.ict.ne.jp/~u-eastrc/　e-mail: u-eastrc@ict.ne.jp

本日の例会　第1997回　2023年10月12日（木）

開会点鐘　12：30
ソング　RC『我らの生業』・『また君に恋してる』
ゲスト・ビジターご紹介
食事の時間・出席報告
会長の時間・幹事報告
ニコニコボックスの報告・委員会報告・同好会報告
ロータリーの友読みどころ
本日の行事　「ガバナー選出の裏側」
地区指名委員会前委員長　田山会員
閉会点鐘　13：30

本日の例会　第1996回　2023年10月5日（木）

開会点鐘　12：30
ソング　国歌斉唱『君が代』
ロータリーソング『奉仕の理想』
米山記念奨学会　奨学金贈呈
ゲスト・ビジターご紹介
食事の時間・出席報告
会長の時間・幹事の時間
ニコニコボックスの報告・委員会報告・同好会報告
本日の行事
「米山記念奨学会月間に因んで　米山奨学生　張茜茜」
閉会点鐘　13：30

米山記念奨学会　奨学金贈呈　小林カウンセラー

米山奨学生
張　茜茜さん

出席報告　西 出席委員長

本日の出席率　93.75％
1991回8月31日（木）修正出席率90.32％

幹事報告　西口幹事

本日第４回理事会が開催され、

- **１１月プログラム**
- **例会変更**
- **熊野RCとの会長交換卓話**
- **１１月３日に開催の上野ガス展に於いて上野RCとの合同ポリオ撲滅募金**
- **記念事業の寄贈時計、旧阿山町B＆G公園内の時計、故障の為撤去が承認されました。**

ニコニコボックス報告　東委員長

長谷川会長　**張茜茜さん本日の卓話ヨロシクお願いします。**
西口幹事　**張茜茜さん卓話楽しみにしています！！**
伊藤会員　張さん本日卓話たのしみにしています。ガンバって下さい。
中里会員、松本会員　張さん頑張って！！
子日会員　先日は東さんお世話になり有難うございました。張さん卓話宜しく。
神戸会員、宮田会員、鈴木会員、中尾会員、西会員、出後会員、小林会員、山森会員
張さん卓話楽しみにしています。
平井会員、三谷会員、南会員、三山会員、前田会員、野口会員
ニコニコボックスに協力します。
東会員　子日先生ありがとうございます。先生のおかげで目標行きました！！
はぐるま会にご参加いただける皆様、来週か１０月２６日の例会の時に
会費6,000円集めさせて頂きます。よろしくお願いいたします。

本日合計　21,000円です。

委員会報告　親睦委員会　鈴木委員長

１０月１９日（木）親睦家族旅行の件、来週例会時会費を徴収いたします。会員20,000円、ご家族10,000円のご準備お願いいたします。

委員会報告　奉仕部門　中里部門長

例会終了後、第4回奉仕部門会議をロータリー事務所にて行いますよろしくお願いいたします。

会長の時間　令和５年１０月５日

『運命の出会い　米山梅吉（49才）と福島喜三次（36才） in ダラス』

2023-2024年度
会長　）長谷川真嗣

日本で最初にロータリークラブが誕生したのは世界最初のシカゴクラブ誕生から15年後の大正９年（1920）のことである。言うまでもなく東京ロータリークラブであるがその登録番号は何と855番であった。

日本にはじめてロータリークラブが生まれるについては米山梅吉と福島喜三次が米国ダラスでの“運命の出会い”がきっかけであったと言えよう。その後、日本のロータリークラブは米山を中心に動いていくのであるが、この二人の出会いは日本のロータリーにとって極めて重要でこれにより日本のロータリーの性格が左右されたと言われている。

当時の２人の肩書、米山梅吉は三井銀行常務取締役、福島喜三次は三井物産ダラス支部長であった。米山は勅令により大正６年（1917）　政府の特別派遣財政経済院委員に任命され遣米使節団として渡米した。この使節団の主目的は日本が第一次世界大戦によって巨額の利益を得ているなどといって米国と摩擦が生じ政府外交だけに任せられず日米の実業家の交流が必須であると考え派遣したのであった。一方の福島は三井物産に入社し綿花部の現地法人代表としてダラスに赴任、三井物産綿花部が独立して東洋綿花となり福島はその最高責任者であった。米山の遣米使節団はワシントンやニューヨークなどの中心都市で交流活動をしていた。しかし、米山は一行から離れて、なぜ2000kmも離れたダラスに１人で赴いたのであろうか？銀行家として融資や借入の話、あるいは綿花取引の現状確認か。責任者である福島からそういった類の話を聞きたかったのであろうか。この時点ではロータリーは一切出てこない。

福島は第一次世界大戦後、大正6年（191７） ダラスロータリークラブに入会している。米山と福島が“運命の出会い”をするのは、大正７年（1918）だが２人の間でロータリーの話が出たかも知れない。これは憶測の範囲であるがもし米山が福島からロータリーの話を聞いたとすれば、米山はきっと興味を持ったと思われる。米山は大正３年（1914）に「新隠居論」なるものを著している。世の中で信用され経験豊富で実業界の長老にある立場の人たちは本業を若い人たちに譲って地域の公共事業に貢献して欲しいと著書で謳っている。元来、そうした奉仕の精神が米山には備わっていたのである。

大正8年（1919）、福島は帰国の途につき、ダラスクラブの会員から日本にもロータリークラブを創設するように勧められる。国際ロータリークラブ連合会（現在のＲＩ）などの関係機関を奔走し日本初のロータリークラブ設立を進めていく。しかし、福島はこの時まだ38才で三井物産の副支配人でいわば勤め人であった。そこでダラスで出会った米山にその実質的な権限を委ねたのである。

こうして米山は大正9年（1920） 自ら選定したであろう１８名を集めてロータリー創設の説明会を開く。そして、大正10年（1921） ４月１日　米山が初代会長、福島が初代幹事として東京ロータリークラブが誕生したのである。今から102年前のことである。第一次世界大戦後の混迷のさなかに二人の男が遠くアメリカのダラスで出会ったことが2200余りの日本のロータリークラブに繋がっているのである。いつの時代も何かが起きるのは人と人との出会いからだと感じた。

委員会報告　プログラム委員会　松本委員長

・11月2日（木）例会2000回記念「クラブの歩み」
木津クラブ運営部門長、宮田副部門長
・11月９日（木）地区セミナー報告（会員増強・R財団・職業奉仕）
小林会員・三山会員・伊藤会員
・11月16日（木）夜間例会（30分延長）
熊野RC会長交換卓話
・11月23日（木）法廷休日
・11月30日（木）「伊賀の魅力再発見」
講談師玉田玉秀斎様

米山記念奨学会カウンセラー　中村会員

今月10月は米山月間です。
米山奨学金事業は、日本ロータリーの独自事業、日本全国34地区の合同国際奉仕事業となっています。誕生のきっかけは生前、米山梅吉氏が外国人留学生の支援に熱心で有ったことから約70年前の東京RCが発表した米山基金に始まります。日本で学ぶ外国人留学生の為、奨学金を支給し日本と世界の架け橋になる人材の育成、それによりロータリー理想とする国際理解、親善、平和の実現の為、米山基金が設立されました。
最大の特徴は、世話クラブカウンセラー制度です。お金を渡すだけでなく、カウンセラーを通し人との出会い、交流を深める。奨学生はロータリークラブのメンバーとして例会に出席し会員との交流の中で日本の社会を知ってもらい、ロータリーの精神を学んでもらう。張さんも月1回例会に参加頂いております。皆様と共に交流を深めロータリー精神を学び、奉仕の機会を自分の成長の機会にした頂き、我々クラブも同じように成長していければと思います。

本日の行事

米山記念奨学会月間に因んで　米山奨学生張茜茜さん

私に関して。。

皆さま、こんにちは。本日はこの素晴らしい機会をいただき、お話しする機会を得て光栄です。私は張　茜茜と申します。まず、お招きいただき、この場にお集まりいただいた皆さまに心より感謝申し上げます。
文章を書くのが得意ではないので、多分話があっち行ったりこっち行ったりと聞きにくいかもしれないですが、最後まで頑張りますので、ご清聴宜しくお願い致します。

まず初めに、私の名前は張茜茜です。父が私に「茜」という名前を付けました。この名前は、彼が辞書を調べて見つけた植物「茜草（あかねぐさ）」に由来しています。茜草は道路脇に生える野草で、非常に頑丈でしぶとい植物として知られています。彼は私が異なる環境でもしぶとく生き抜ける人になってほしいと願って、私に「茜」という名前を与えました。私も、父の期待に応え、しぶとい人間になることを願っています。これが私の名前の由来です。

日本に来て初めて知ったことは、日本語では「茜」が夕焼けの色を指すことが多いということです。それは赤みの強いオレンジ色で、非常に美しい色です。私は日本語で初めて「夕焼け」という言葉を学びました。この中国語のない言葉の情景は本当に美しいもので、日本語の言葉にさらに惹かれるようになりました。

話が少し逸れてしまいましたこと、大変申し訳ございません。それでは、自己紹介を続けさせていただきます。

私は2019年に日本にきて、今まで既に4年が経ちました。正直と言う、最初、私の計画は非常に単純でした。当時、新しい生活の環境に移りたいと考えており、幼いころからアニメが好きで、日本の文化に興味もあって、日本に生活することに憧れていました。そこで、日本語を学び、大学院に進学することを決意しました。その後の進路についてはあまり考えていませんでした。一歩一歩進んでいくというのが、私の人生観のやばいとこかもしれません。しかし、想像もしなかったことは、新型コロナウイルスの流行が世界中に広がり、私を含む多くの人々がその影響を受けることでした。この期間についての詳細は、後でお話ししようと思います。

私の家族についても続けて紹介させていただきます。私の家族には、父、母、そして弟がいます。父はデザイナーとエンジニアで、私が幼い頃、彼の勤務先は日本のある企業とプロジェクトで協力していました。そのため、彼は日本へ出張し、私に「かしこまりました」という日本語の言葉を教えてくれました。小学校の頃、私は学校で自分の日本語能力を自慢しており、クラスメイトに「かしこまりました」と言って回っていました。今思い返すと、少し恥ずかしいと思いますが、子供の無邪気さというものでしょうか。

次は、母についてお話ししましょう。私の母は主婦で、私が記憶がある限り、私、弟と父の日常生活を世話しています。母は非常に頑張っていましたが、以前はそれを当たり前だと感じており、それがどれほど偉いことかについてはあまり気付いていませんでした。
しかし、独りで日本に来た後、普通の生活を維持することがどれほど難しいかを知るようになりました。部屋は掃除しなければきれいにならず、美味しい料理は自動的に机に並ぶわけではなく、食材を買い、料理し、そしてその後片付けをしなければなりません。今では、家の掃除に疲れたとき、母に対するの尊敬がますます強くなります。

次は私の弟です。私の弟は私よりも6歳年下で、当時の計画生育政策では二人目の子供を持つことは禁止されていました。しかし、農村の戸籍の場合、兄弟の年齢差が6年以上あれば、二人目の子供を持つことができます。私の弟はそのようにして生まれました。私の弟は幼い頃から賢い子で、私の目には永遠に幼稚園児のように見えました。しかし、彼が大学でフランスの大統領のマクロンに会ったということは、彼の投稿をSNSで見ると、成熟した大人になったことに気づきました。以上は、私の家族の話です。

それで、私の出身地についてお話ししましょう。

私は中国の広東省河源市で生まれました。河源市は中国の南部の小さな町で、山が多く、普通は外へ出かけることが難しい地域で、貧乏な町です。1980年代、中国の改革開放のおかげで、父は広東省の深圳市で仕事を見つけました。そこで仕事を見つけた彼は、私の母と出会い、深圳市に定住しました。

深圳市は中国の経済特区の一つで、経済が急速に発展しています。私もこの環境に恵まれ、幼いころからコンピューターで日本のアニメや漫画を楽しむことができました。中学校の頃、家の近くにアニメの展示会があり、日本の女子高生のコスプレをしたこともあります。今思い返すと、恥ずかしいなあと思うこともありますが、それも相当面白かったと思っています。おそらく、そこから日本への憧れが芽生えた瞬間だったのかもしれません。

中国の南部で育った私は、高校卒業後、中国の東北部にある大学に進学しました。その地域は夏がたった一か月しかない場所で、冬には最低気温がマイナス30度に達することもありました。一方、室内の温度は25度前後を保持しています。その町が、冬に石炭を燃やす暖房の方式であったため、空気の質はあまり良くありませんでしたし、時には酸性雨が降ることもありました。そして、2017年の夏、私は大学を卒業しました。卒業後、私は深圳市に戻り、仕事を探し始めました。これは中国と日本の大きな違いの一つかもしれませんね。日本では多くの人々が早くから就職活動を始めています。中国の大学生は卒業後に就職活動を始め、これを「天国から地獄への転落」と形容する言葉もあります。私もその経験をしました。就職活動を始めてから2か月かかり、証券会社で給与計算の事務員の仕事を見つけました。月ごとに社員たちの給与を計算し、支給する責任がありました。一年目は順調に過ごしましたが、二年目になると会社の業績が低下し、ボーナスも支給されなくなりました。また、職場でのストレスも感じ、完全に新しい生活環境を変える考えが芽生えました。

そして、2018年に、私は日本語学校に入学申請の手続きを始め、留学ビザを取りました。2019年の春、私は日本の東京にいきました。東京は非常に多くの人々が住む都市で、深圳市と同様ににぎやかで、ほぼ同じかな…と思っていました。ただし、東京の物価は高くて、果物は高くて、家賃も高くて、交通費も高くてあることに最初に驚きました。これが私が東京に到着した最初の感想でした。

それに伴い、言葉の問題も発生しました。日本語は私が想像していたよりに難しい言語で、特に文法の勉強は非常に困難でした。幸運なことに、私は多くの助けを受けました。道で出会った知らない人、交番の警察官、日本語学校の先生、そして中国人の友達、彼らは私に多くのことを教えてくれました。彼らのおかげで、新しい都市でつまずくことなく過ごすことができました。友達はさらに、私に初めのアルバイトを紹介してくれました。それはタイピングの仕事で、特定のファイルの特定の文字を別のファイルに入力するだけのものでした。

しかし、このバイトは長く続きませんでした。新型コロナウイルスが現れ、その会社はバイトが不要になったと言いました。それに続いて、日本語学校が通学からオンライン授業に切り替わり、政府も不要不急の外出を控えるように呼びかけました。その結果、私はほぼ半年間ほとんど外に出ることがありませんでした。

この期間中、さまざまなストレスが重なり、私はうつ病にかかりました。近いところに友達がおらず、コミュニケーションもなく、外出もほとんどないからです。身体化障害の症状が現れ、ベッドに動けなくなることさえありました。半年後、コロナの状況が少し緩和したとき、学校を通学の生活に戻りましたが、直後に新たな打撃が襲いました。それは、不明な原因で鼻血が止まらなくなりました。最初は数十分で、最悪のときには数時間にわたりました。Googleで調べると、血小板減少症紫斑病にかかっている可能性があることがわかり、これは難病の一つらしいでした。恐れを抱えて近くのクリニックに行き、血液検査を受けました。翌日、クリニックの医者さんは私の血小板数値が低いことを伝え、大きい病院での検査が必要だと言いました。そこで私は順天堂病院に行き、何度も血液検査を受けました。医者さんのアドバイスに従い、骨髄検査を受けました。結果を数週間を待ちましたが、難病ではなくただ血液感染することが判明しました。その瞬間、新しい命を授かったようでした。

この病気の事から、死亡との距離が非常に近いことを感じました。自分がやりたいことを急がなければ、時間が足りなくなるかもしれませんとわかりました。そこで、神奈川県で精神科医を訪れ、うつ病の薬を飲み始めました。その後、千葉県に住む友達と連絡を取り、2週間ごとに会っておしゃべりをするとか、一緒にキャンプするとかを約束しました。それで、最も重要なのは、病気で取りこぼした日本語の授業を補うことでした。これが私と日本社会との最も重要な結びつきからです。

そして、2022年、私は三重県の鈴鹿大学に入学し、修士課程の学習を始めました。修士の2年目が始まると、米山記念奨学生として選ばれました。

それでは、次に、私が大学院で研究している課題について皆さまにご紹介したいと思います。私の研究テーマは「民国上海のチャイナドレスの変遷に関する研究」です。皆さまはチャイナドレスという服装をご存知でしょうか？チャイナドレスは、中国の民国時代の女性の衣装で、その優雅なスタイルで知られています。以下の4つの画像を見ながら、どれがチャイナドレスだと思いますか？実はこれらの写真はすべてチャイナドレスですよ。ただ時代やデザインが異なるだけです。それでは、民国時代の上海のチャイナドレスについてご紹介しましょう。

1920年代において、チャイナドレスが萌芽から流行へと進みました。この時期、西洋と東洋の要素が融合した革新的な特徴が次第に現れてきました。女性の服装は大胆さを増し、チャイナドレスは全体的に逆梯形の形をしており、袖口は広くなったが、基本的にはウエストのラインを強調しません。チャイナドレスの裾は足首に位置します。しかし、1920年代後半になると、チャイナドレスは短くなり、最短ではふくらはぎの中間までです。

この写真は中国の清朝の最後の皇帝、溥儀（プイ）と彼の皇后、婉容（エンヨウ）の写真です。写真からは、婉容が身に着けているのが「倒大袖」と呼ばれるチャイナドレスであることがわかります。

1920年代後半になると、チャイナドレスの袖口は細くなりました。チャイナドレスも短くになり、ふくらはぎの上半分までのところになりましたが、もちろん脚首までの長さも依然として存在しています。

1930年代から、チャイナドレスはウエストを絞り始め、女性のボディラインが強調するようになりました。もっと短く、膝までの長さのチャイナドレスが登場しました。もちろん、足首までの長いチャイナドレスもあります。このチャイナドレスの最盛期において、長さや袖の幅、襟の高さなど、ほぼ毎年、デザインが変化していました。まさに百花繚乱と言えます。

1920年代から40年代、ある雑誌があります。それは『良友』画報です。『良友』画報は1926年に創刊し、1945年に休刊されました。この期間はちょうどチャイナドレスが流行していた時期と重なります。『良友』の画報の多くの表紙は、チャイナドレスを着用している女性がのっていました。これも当時のチャイナドレスの流行を示しています。『良友』画報は、チャイナドレスの流行を大いに促進しましたことがわかりました。

ただし、1940年代後、戦争の影響が広がりにつれて、チャイナドレスの色彩は以前ほど派手ではなく、より控えめな印象となりました。

私の論文は、年代順に書かれる予定です。具体的には、20世紀20年代、30年代、40年代にそれぞれ焦点を当てて書かれています。このようにすることで、異なる時代における民国上海のチャイナドレスの着用の形式の変化や当時の社会の発生した事件、そしてそれらの事件がチャイナドレスの流行にどのような影響を与えたかをわかりやすくなります。

以上は、私が大学院で研究している課題についての紹介です。

最後に、私は自分と米山記念奨学金と上野東ロータリークラブについて話したいと思います。米山記念奨学生に選ばれたことは、私の、今年で最も重要で、最も光栄で、最も幸運な出来事です。

米山記念奨学生になることは、私にとって非常に貴重な機会であり、さまざまな人々と触れ合い、新しい知識を学ぶことができるものです。米山記念奨学金のおかげで、私は多くの新しい経験と機会に恵まれ、自分自身を成長させることができます。米山記念奨学金を受けることで、私は専門の学習により多くの時間を割り当てることができ、参考文献を読む時間にもっと余裕を持って取り組むことができるようになりました。奨学金を受け取る前は、毎月約70時間のアルバイトをしていましたが、今は半分に削減することができました。今年の八月、通学の自動車学校に入校し、学生時代に免許を取ることが私の夢でしたが、それが実現できるようになりました。これはすべて、米山記念奨学金のおかげです。

私は毎月一度、上野東ロータリークラブの例会に参加します。毎回、私のカウンセラーの小林さんと中村さんは車で30分くらいかけて駅に迎えに来てくれて、例会の会場まで連れて行ってきます。これに対してどう感謝していいのか、本当にわからないです。何回も「ありがとうございました」しか言えないです。

今年の七月、私は上野東ロータリークラブのロータリアンの恒岡さんの陶芸教室の陶芸体験をいただきました。実はその日、私は駅までの途中、携帯が落としてしまいました。私はすごく焦って、学校に連絡でも見つからなかったという返信がくれました。しかし、恒岡さんの陶芸教室に入って、冷たい陶土を握って、恒岡さんの優しい指導もくれて、私の心も静かにしました。最後、茶碗やコップ全部、四つができました。ありがとうございました。ちなみにですが、携帯も見つかりました。ほんとに、上野東ロータリークラブはまるで大家族のようであり、私のカウンセラーは家族のような存在です。

将来は、私も他人への優しさと温かさを受け継ぎたいと思っています。生活でも仕事でも、他人やお客様に対しても、優しくて、公正であり、相手の期待に応えるよう努めたいと考えています。

最後になりますが、皆様、お時間を割いてお傾聴いただき、本当にありがとうございました。今日の卓話を通じて、自分のことや研究などについてお話しでき、皆様と共有できたことを嬉しく思います。今後も頑張って研究を進め、自身の成長と社会への貢献に努力してまいります。どうもありがとうございました。

2023年10月9日（月/祝）
第2630地区中勢・伊賀グループ
インターシティーミーティング
地区方針　奉仕の心を未来へ
つなげよう
IMテーマ　ロータリーとSDGs
のテーマで開催されました。

参加された皆様お疲れ様でした。